

科目名	工業簿記	科目分類	■専門科目群(第1グループ)	
			□総合科目群(第2グループ)	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Industrial Bookkeeping	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	よしだ かつひろ	開講時期	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	吉田 勝廣	修得単位	2単位	
授業のテーマ	製造業における製造活動の記録・計算について理解する。			
授業概要	工業簿記は、製品の製造活動を複式簿記により記録・計算する簿記である。本講義では、工業簿記の基本的な記帳技術を習得と原価計算の計算構造に関する基礎について講義を行う。具体的に言えば、授業中に配布する「練習問題」を分かりやすく丁寧に解説し、さらに「応用問題」を解くことによって知識が定着する、という順序で授業を進める。			
到達目標	日商簿記検定2級(工業簿記)の基本をマスターし、簿記検定の資格取得である。			
授業時間外の学習	授業前には、前回の配付資料を確認(問題を解くことによって、知識の定着)しておいてください。			
履修条件	簿記の知識が必要であるが、初心者でも受講できる。			
授業計画				
第1回	工業簿記の本質と構造			
第2回	費目別原価計算(その1):材料費の計算			
第3回	費目別原価計算(その2):労務費・経費の計算			
第4回	製造間接費の実際配賦と予定配賦			
第5回	部門別原価計算のうち、部門費の集計と補助部門費の配賦			
第6回	部門別原価計算のうち、製造部門費の配賦			
第7回	単純総合原価のうち、月末仕掛品の評価方法			
第8回	単純総合原価のうち、仕損費・減損費の処理			
第9回	工程別総合原価計算			
第10回	等級別総合原価計算。			
第11回	標準原価計算			
第12回	標準原価計算の原価差異分析			
第13回	直接原価計算の構造			
第14回	工場会計の独立、第1回から第14回までの復習を行う。			
第15回	日商簿記2級の模擬試験(工業簿記)を行い、終了後解説する。 ※受講生の理解度等により、講義の順番を変えることがある。			
第16回	定期試験			

テキスト	資料を配付する
参考文献・資料	検定簿記講義 2級工業簿記 平成 30 年度版 (中央経済社)
成績評価の方法	授業態度 (30%)、提出物 (10%)、定期試験 (60%) ※授業態度は、授業内容に対する関心度と理解度を質疑応答において確認評価する。
成績評価基準	【平成 27 年度 (2015) 以前に入学した学生】 優 (100~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下) 【平成 28 年度 (2016) 以降入学した学生】 秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができない。
オフィスアワー	水曜日と木曜日の空き時間
学生へのメッセージ	簿記の知識は、ビジネスのあらゆる所で活かすことができるので、積極的に日商簿記検定を受験し、資格取得を目指してほしい。